

四国西予ジオミュージアム基本計画（案）

平成 29 年〇月

西予市

目 次

1 計画の背景と目的	1
(1) 背景	1
(2) 目的	1
(3) 上位・関連計画との位置付け	2
2 既存施設の問題点と施設の複合化	2
(1) 既存施設の現状と課題	2
(2) 施設の複合化	4
3 計画建物	4
(1) 敷地の選定	4
(2) 敷地面積及び建物構造	6
(3) 建物概要	6
4 旧施設跡の整理	6
5 名称	7
6 施設誘導	7
(1) 来館経路	7
(2) 誘客促進	7
7 内装及び外装	8
8 基本理念	8
(1) 四国西予ジオパークの特徴であるジオ多様性（地形・地質・生態系・文化の多様性）を認識し、理解を深める施設	10
(2) ジオパークの理念を啓発するとともに、ジオパーク活動の情報発信を行う施設	11
(3) 周辺施設及び市内博物館等と一体的に機能する施設	11
(4) 将来に渡って持続可能な施設	11
9 展示方針	12
(1) 学芸員及びジオガイド等の活動に応じた展示	12
(2) 知的好奇心を刺激する展示	12
(3) ユニバーサルミュージアム	12
10 館内構成	12
(1) ジオパークを学ぶ	13
(2) 変動する大地と四国西予ジオパークの成り立ちを学ぶ	13
(3) 四国西予ジオパークの地形・地質、生態系、文化の多様性と繋がり	13
(4) 黒瀬川構造帯	14
(5) 多くの利用者が集い賑わう多目的ホール	14
(6) ジオパークの拠点施設として一体感を持った館内構成	14
(7) 屋内展示と連動した屋外空間の活用	14
11 管理・運営	15

(1) 組織体制.....	15
(2) 集客想定.....	15
(3) 収蔵物の管理.....	16
(4) 開館時間及び休館日.....	16
(5) 施設の利用料金.....	16

1 計画の背景と目的

(1) 背景

西予市は、科学的に貴重な地質遺産と、それに由来した自然遺産や文化遺産などが見られる「大地の公園」である日本ジオパークに四国西予ジオパークとして平成 25 に認定されました。市では、四国西予ジオパークに数多く存在する地域資源を、生涯学習や学校教育の場、新たな観光資源として、地域振興に活かす「ジオパーク活動」を通じながら「ジオパークブランド」を活用し、四国西予ジオパークを通じた市民の郷土愛の醸成と経済への好循環を目指した継続的な取り組みを行っています。特に、城川町の土居地域に建設された西予市城川地質館では、ジオツアーや児童・生徒の学習拠点の場として黒瀬川構造帯の生い立ち、地球の成り立ち、様々な化石、岩石について学ぶことができる施設として注目され、利用されてきました。

しかし、西予市城川地質館は、建築後 20 年以上経過し、様々な問題を抱えていることから移設を含めた見直しが課題となっていました。さらに、西予市城川地質館は日本ジオパーク認定以前の施設であることからジオパーク的な要素は薄くなっています。このため、ジオパーク拠点施設としての西予市城川地質館の在り方を検討し、公共施設との機能分担及びスペースを有効活用した新たな拠点施設の整備を行うことは平成 26 年に策定された「四国西予ジオパーク推進計画」においても課題となっている状況です。



このような中、平成 27 年度、城川支所内に地質館活用検討委員会が立ち上がり、博物館が持つ展示施設に学習会や講演会、各種会議を行うことが可能な多目的ホールを加えた複合施設を整備する方向性が示されました。

(2) 目的

本計画では、地質館活用検討委員会を中心として取りまとめられた「西予市ジオパーク複合施設構想」を土台とし、市内中学 3 年生及びその保護者を対象に行った「西予市城川地質館リニューアルに向けたアンケート」から得られた市民の意見を取り入れ、新たな施設の具体的な整備に向けた、基本的考え方、展示に関する基本的事項等を明らかにすることを目的とします。

(3) 上位・関連計画との位置付け

本計画は、市の最上位計画である第2次西予市総合計画、及びジオパーク活動の総合的な指針である四国西予ジオパーク推進計画の下位計画として、また、その具体的指針等を定めた四国西予ジオパークブランディング戦略、四国西予ジオパークサイン整備計画及び西予市公共施設等総合管理計画等に基づいて策定しました。

2 既存施設の問題点と施設の複合化

西予市ジオパーク複合施設構想では、西予市城川地質館が抱える諸問題を解決するために施設移転によるリニューアルと併せて、老朽化する総合センターしろかわの多目的ホール機能を含めた複合施設としての整備が求められています。

(1) 既存施設の現状と課題

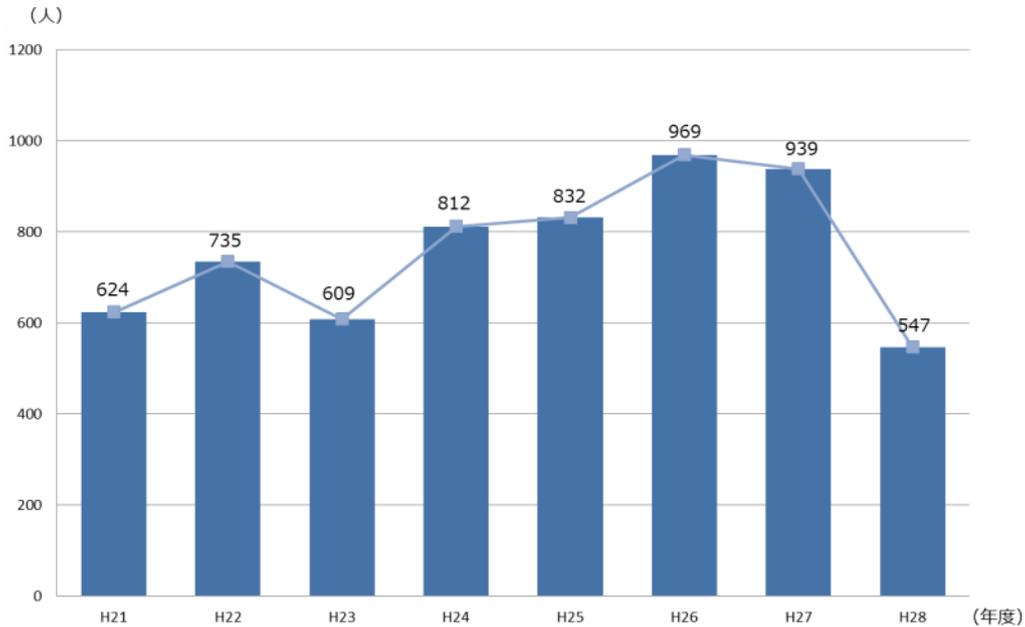
① 西予市城川地質館

現在の西予市城川地質館は、ジオツアーや学校教育等における学習の拠点施設として活用されてきたものの、日本ジオパーク認定以前に建てられた施設であることから四国西予ジオパーク全体のテーマとの関連性が解説されていません。また、展示内容も専門的であるため、日本ジオパーク認定時には審査員から見直しを求められていました。さらに、現在の西予市城川地質館は、幹線道路からも離れた立地条件で利便性も悪く、ユニバーサルデザインに考慮した建築整備がなされていません。加えて、展示内容、表現等にも修正が必要となっていることから大規模な改修が必要となっています。



また、来館者については、日本ジオパークに認定された平成25年度から一時的に増加しているものの、平成28年度は認定以前の水準に落ち込み、他の市有博物館と比べて来館者数が低調となっています。

<西予市城川地質館入館者数の推移>



<建築年度> 平成4年度 (築後 24年経過)

<構造規模> 木造2階建 延床面積 343.5㎡

<耐震性> あり

②総合センターしろかわ

城川支所横に建設された総合センターしろかわは昭和47年度の整備以降、市民、職員が講演会や各種会議等で幅広く利用することが可能な多目的ホール機能を有する施設として長らく活用されて

きましたが、施設老朽化が進んでおり、平成26年度に実施した耐震診断では「耐震性がない」との結果が出ています。



耐震工事には多大な経費が必要とされているだけでなく、仮に耐震工事を行ったとしても施設のバリアフリー化の問題が残っています。さらに、建築後43年を経過していることから、建物の長寿命化が図れない状況にあります。

<建築年度> 昭和47年度 (築後43年経過)

<構造規模> 鉄筋コンクリート造り一部3階建て
延床面積 1,306.3㎡

<耐震性> 平成26年度に耐震診断を実施し耐震補強を要する診断有

<利用者数> 4,780人 (平成27年度)

(2) 施設の複合化

平成 28 年 3 月に策定された西予市公共施設等総合管理計画では、4 つの基本指針のひとつに「統廃合・複合化の推進」があり、更新時には原則的に、近隣にある他の施設との複合化を推進しています。このため、前述の西予市城川地質館と総合センターしろかわが抱える課題を解決するために、これらの施設を一体的に整備することで、市全体としての最適化を図り、市民や来訪者等が交流する拠点機能の強化を図ります。

<西予市公共施設等総合管理計画～基本指針抜粋～>

基本指針② 統廃合・複合化の推進

更新時には原則的に、近隣にある他の施設との複合化を検討する。優先度の低い施設は全て統廃合の対象とし、統廃合により発生した跡地については、賃貸や売却により有効活用し、優先する施設更新のための費用に充てる。

3 計画建物

(1) 敷地の選定

西予市城川地質館の現在の立地について、幹線道路からのアクセスに関しては以下の問題が挙げられます

<西予市城川地質館へのアクセス問題点>

- ・西予市城川地質館へは、国道 197 号線から県道 2 号線、市道を経由する必要があり、城川支所からは片道約 7km、さらに市道の幅員は狭小で離合困難である。
- ・西予市城川地質館には駐車場が整備されているものの、大型バスは市道を通行することが困難なことから駐車不可である。このため、周辺施設の城川自然ロッジ駐車場から歩いて移動しなくてはならない。

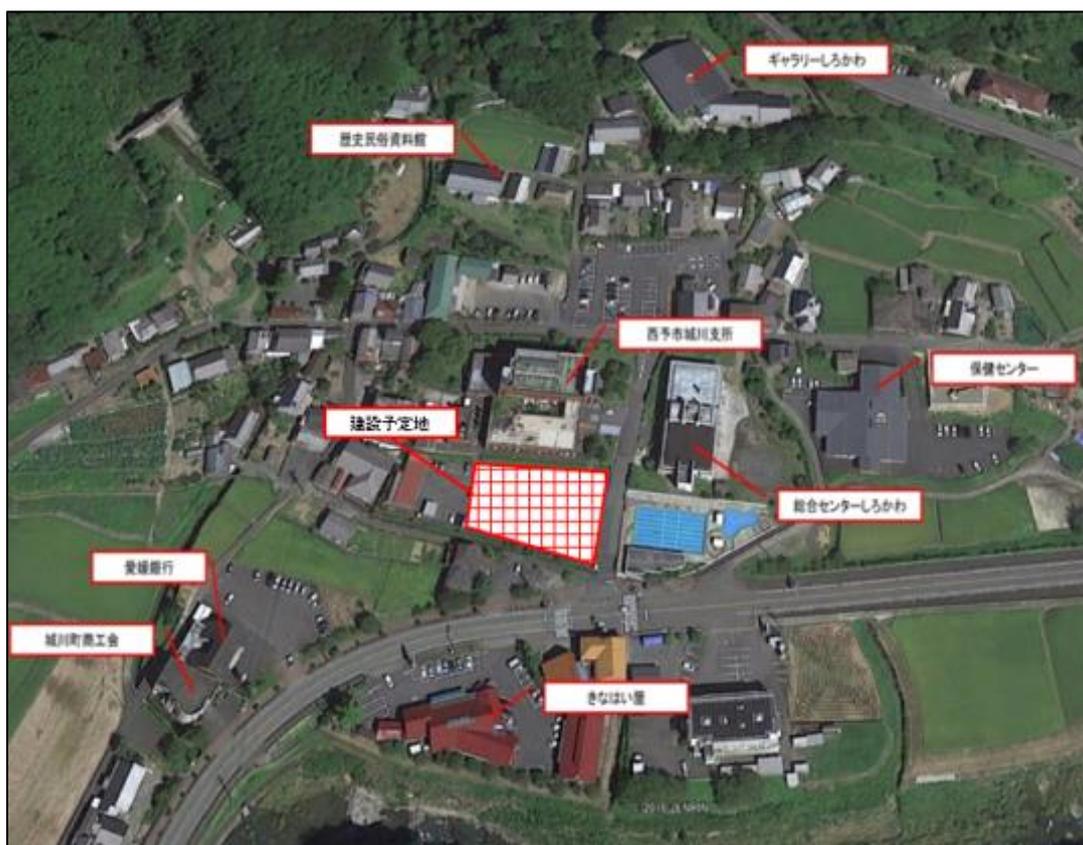
よって、より誘客能力に優れた幹線道路沿いであり、かつ施設の視認がしやすく、アクセスが良い等の立地条件の優れた場所を選定する必要があります。また、複合施設に含まれる多目的ホールは多くの市民が利用することから、アクセス性だけでなく、十分な駐車スペースを確保する敷地面積が必要となります。

このため、新たな複合施設の敷地として、現城川支所南側駐車場を新たな複合施設の敷地として選定しました。選定地の周辺には、城川支所をはじめ西予市立美術館ギャラリーしろかわ、城川歴史民俗資料館、道の駅きなはいやが隣接しており、施設整備によって相乗効果の発揮、利便性の向上が期待

されます。



○建設予定地と西予市城川地質館の位置図



○建設予定地と周辺施設の位置図

(2) 敷地面積及び建物構造

新たな複合施設の内博物館機能を有する展示スペースの施設規模としては、現在の城川地質館の展示面積を参考に、展示標本及び機器類や模型等の配置などを考え、約 300 m²とします。また、集会機能を有する多目的ホールとしての施設規模は、現在の「総合センターしろかわ」の大会議室の面積を参考に約 300 m²とします。これらに博物館で必要な管理スペース、バックヤード、トイレ、スロープなどの必要面積を加え、最終的な計画延床面積は約 800 m²とします。

また、多目的ホールは市民等の会議室利用が見込まれており、夜間においても受付・管理を行う必要があります。このため、人的費用を圧縮し、併設施設との一体的な管理運営を図るために、夜間利用者等が城川支所を通じて入館できるように屋外通路（スロープ）で連結します。建物構造については、将来的な展示スペース等のレイアウト変更に対して柔軟な対応を可能とするため、また、コスト面及び遮音性を考慮し、鉄骨造（S）、平屋建てを採用します。

(3) 建物概要

- ・ 計画地 愛媛県西予市城川町下相 945 番地
- ・ 延床面積 約 800 m²

スペース名	面積	用途
展示スペース	約 300 m ²	標本、機器、模型、パネル等の展示等
多目的ホール	約 300 m ²	事前学習、講演会、各種会議等
その他共用部	約 200 m ²	管理スペース・バックヤード、トイレ、スロープ等

- ・ 構造 鉄骨造（S構造）、平屋建て

4 旧施設跡の整理

複合施設の整備後、現在の西予市城川地質館については施設内部の一般公開は行わず、運用コストを最小限に抑え、これまで収集した貴重な資料、展示物、寄贈物等を保管する収蔵庫として活用します。

5 名称

本計画により整備する新たな複合施設については、当面、名称を「四国西予ジオミュージアム（仮称）」としますが、今後、利用者に親しまれる正式名称、愛称、略称等について検討していくこととします。

6 施設誘導

（1）来館経路

来館者が四国西予ジオミュージアムまで通過・利用する経路については、次の3経路を基本の来館経路とし、観光バス及び自家用車で来館を想定します。

- ①国道197号線（大洲市方面）から、中予及び東予地域からの来館
- ②国道197号線（鬼北町方面）から、南予地域（鬼北町、松野町）及び高知県西部からの来館
- ③県道35号線から、南予地域（宇和島市、八幡浜市）から、また松山自動車道を経由しての来館



○四国西予ジオミュージアムへの来館経路図

（2）誘客促進

上記誘導ルートについては、道中の分岐路等に誘導看板を効果的に設置し、来館者のアクセス性の向上を図るとともに、市民活動等と連携した環境整備に取り組みます。

市内最大の集客施設であり、市の玄関口ともいえる道の駅どんぶり館には平成 29 年度中に四国西予ジオパークの解説と案内機能を備えたビジターセンターが設置されます。このビジターセンターを訪れた観光客がジオパークや地球科学等について、深い知識や体験学習の機会を得られる四国西予ジオミュージアムの誘導へと繋がるように、お互いの施設と人が連動・連携した誘客促進を図ります。そのほか、特急列車が停車する JR 卯之町駅を中心とした「卯之町「はちのじ」まちづくり整備事業」によって、駅周辺部における観光客への窓口機能の強化が期待されることから、今後、四国西予ジオミュージアムへの効果的な誘導を検討していくこととします。

また、誘導ルート等から想定する集客を促すために、必要な情報をまとめた魅力的なウェブサイトの構築、SNS を積極的に活用した情報発信等、効果の高い広報活動を戦略的に展開するとともに、それに応じたリソースを十分に確保します。

7 内装及び外装

四国西予ジオミュージアムの内装及び外装については、四国西予ジオパークブランディング戦略に基づき周辺の自然景観と調和した意匠を施すこととします。特に、外装については、四国西予ジオパークの拠点施設という位置づけであることをシンボリックに表現します。

また、施設の正面入り口、壁面、室内装飾品等には木材を積極的に活用することで、温かみのある空間演出を心がけます。

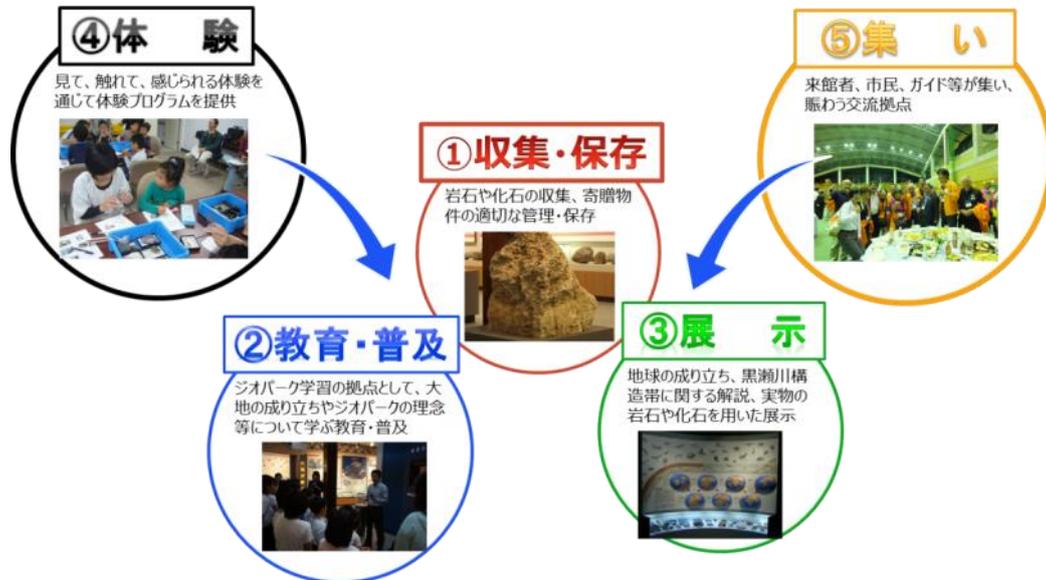
8 基本理念

これまでの西予市城川地質館の基本機能としては以下の 3 要素を軸に構成されていました。

- ①収集・保存・・・県外の博物館と連携し、世界的に貴重な展示物の借り入れ、また、県内の愛好家のネットワークを通じ、寄贈等による多岐に渡る豊富な展示物の収集
- ②教育・普及・・・総合学習の時間等を活用し、大地の成り立ちやジオパークの基本的なことについて学ぶ教育・普及
- ③展示・・・大地の成り立ちやプレートテクトニクス及び黒瀬川構造帯について解説した展示、実物の岩石や化石の展示

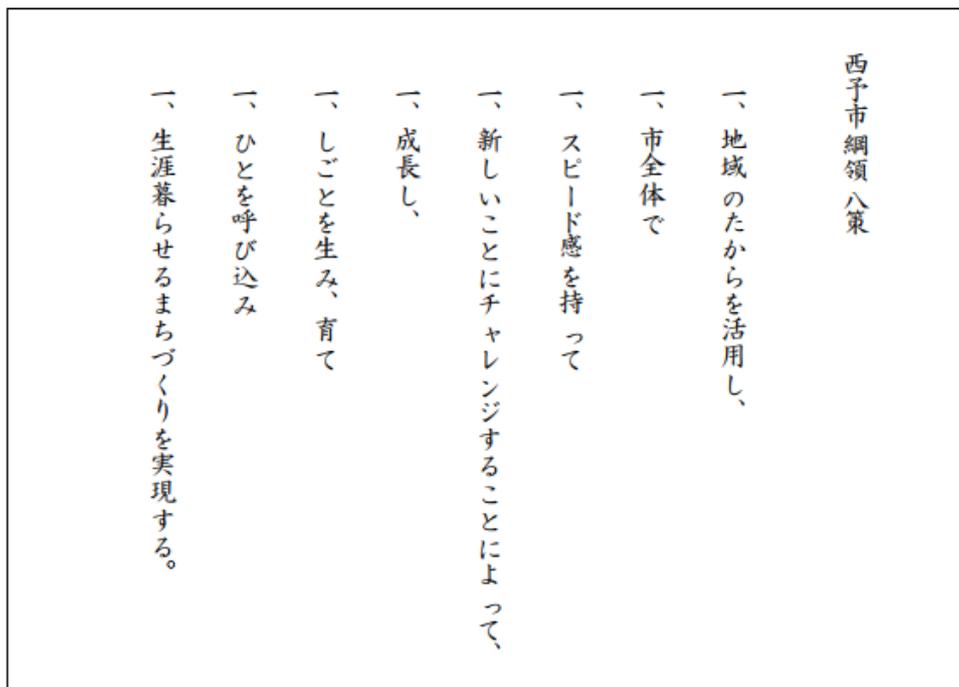
四国西予ジオミュージアムでは、この 3 要素に新たに 2 つの要素を基本機能として追加し、施設の実を図ります。

- ④体 験・・・来館者が驚きや楽しみ、調べる、つくるといった多彩な体験が得られるミニ実験、見て、触れて、感じられる体験を通じて展示で得られた知識をより深められる体験プログラム
- ⑤集 い・・・多目的ホールを利用する市民が集い、博物館への来館者、ガイド、学芸員が学び、賑わう交流拠点



また、四国西予ジオミュージアムの基本理念では第2次西予市総合計画で掲げられる基本理念の考えを取り入れ、四国西予ジオパークだからこそできる博物館運営と日々の改革を実行していきます。また、第2次総合計画内の西予市綱領八策にありますように、地域のたからを活用した郷土愛の醸成による地域活性化の実現、地域内外の連携、変化に対応するスピード感、これまでの枠組みに捉われないう取り組みにチャレンジしていくこととします。

<西予市綱領八策（第2次西予市総合計画）>



これらの基本機能及び博物館運営の基本的考え方を踏まえ、四国西予ジオパークの拠点施設としての機能を整理し、四国西予ジオミュージアムに求められる4つの基本コンセプトを以下のとおり定めます。

（1）四国西予ジオパークの特徴であるジオ多様性（地形・地質・生態系・文化の多様性）を認識し、理解を深める施設

四国西予ジオパークには、日本最古級の黒瀬川構造帯などの個性的な地質や、四国カルスト、宇和海リアス海岸、河成段丘といった特徴的な地形、海拔0mから1,400mまでの海・里・山に多種多様な生態系や伝統・文化が存在しており、ジオ多様性がテーマとなっています。しかしながら、多様性による違いを強く押し出せば、全体としての統一感に欠けてしまいます。このため、統一感を保ちながらも、地形や地質の違い、標高差による違い、それらが影響し合っ生まれた人々の暮らしや伝統・文化といった地域の違いを発見し、違いを比較することで、来訪者が四国西予ジオパークのジオ多様性、変動する大地のメカニズムに気づき、理解できる施設を目指します。

また、四国西予ジオパークの中でも取り分け重要で地質学的な特徴を持つ“黒瀬川構造帯”については、建設予定地である城川地域が研究発祥の地であり、大変ゆかりのある地質であることから、最新の研究成果に基づいた成り立ち等について学ぶことができる施設を目指します。

(2) ジオパークの理念を啓発するとともに、ジオパーク活動の情報発信を行う施設

ジオパークでは、地質や地形とそれに関わる地域資源を保護・保全するとともに、教育や研究、また、ジオツーリズムによって地域の振興に活かすことで、地域の持続的な発展に繋げることを基本理念としております。ジオパーク認定地域や新規認定を目指す地域で組織する日本ジオパークネットでは、その理念を共有し、普及啓発に努めています。四国西予ジオパークにおいても、日本ジオパークネットワークの一員として他地域のジオパーク情報や保全・教育・ジオツーリズムに関する情報の発信を通じて、ネットワーク活動に貢献するとともに、ジオパークの理念浸透が図れる施設を目指します。

(3) 周辺施設及び市内博物館等と一体的に機能する施設

四国西予ジオミュージアム建築予定地の周辺には、主要なジオサイトが点在しているほか、隣接地には城川支所、全国「かまぼこ板の絵」展覧会が開催される西予市立美術館ギャラリーしろかわ、考古学的に重要な価値を持つ遺物を展示する城川歴史民俗資料館といった四国西予ジオパークとも関連の深い施設、また、観光拠点のひとつである道の駅きなはいやが併設されています。これらの関連性を最大限に活かし、四国西予ジオミュージアムが各ジオサイト及び施設への橋渡しを行うことで周辺地域と相互作用をもたらす施設を目指します。

また、四国西予ジオパーク内には、愛媛県南予地域の歴史・文化を紹介する県立歴史文化博物館や国の重要文化財 開明学校、宇和民具館を始めとした文化に関する多様性を詳細に展示・解説する施設、また、市内で最大の集客力をもつ道の駅どんぶり館が点在しています。このため、四国西予ジオミュージアム内で全ての情報を取り扱って詳細を提供するのではなく、市内の各施設への誘客、周遊性の向上等により市全体が一体として機能する施設を目指します。

(4) 将来に渡って持続可能な施設

四国西予ジオミュージアムでは単に高価で貴重な展示物等によって集客を図るのではなく、西予市城川地質館にある既存の収蔵物の有効活用や四国西予ジオパーク内で採取された岩石や化石を積極的に用いて地形や地質等の自然現象を解説します。また、学術的価値を高めていくために、県内の大学やNPO団体等と連携・協働し、情報力や展示資料等を強化・充実させることで、四国西予ジオパークの資源である地質、地形、生態系、伝統文化といった多方面にわたる魅力的な素材を網羅します。

さらに、来館者向けプログラムとして、四国西予ジオミュージアムの見学と併せて周辺ジオサイトを楽しむ体験プログラム等の充実のほか四国西予ジオパークならではのジオストーリーを楽しむツアーに四国西予

ジオミュージアムの見学を組み込む旅行商品の開発によって、来館者の高い満足度とリピーター増に繋がります。それにより安定した施設運営を図り、将来に渡って持続可能な施設を目指します。

9 展示方針

四国西予ジオミュージアムの4つの基本コンセプトを実現させるため、館内の展示に関する基本的な方針を以下のとおり定めます。

(1) 学芸員及びジオガイド等の活動に応じた展示

四国西予ジオミュージアムでは、学芸員等が行う館内案内やジオガイドが案内するジオツアー等の拠点施設の場としての施設活用が期待されております。このため、施設の展示内容については、学芸員やジオガイドの意向を反映することで実際の活動法に応じた展示とします。また、学芸員、ジオガイド、地域住民がジオサイトやそこに関わるリアルタイムな出来事を自由に来館者に情報発信できるツールを備えた展示とします。

(2) 知的好奇心を刺激する展示

来館者が四国西予ジオパークに分布する岩石や展示品等に気軽に触れて、直接的に体感する参加体験要素を散りばめ、大人から子どもまでの幅広い世代の知的好奇心を刺激することで自発的な学びを誘発する展示とします。

また、VR/ARデバイス等の最新の視聴覚技術を効果的に用いることで、実感が難しい自然現象等の体感・体験効果の向上を図ります。

(3) ユニバーサルミュージアム

全ての人の立場に立った利用しやすい施設であるために、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた多様な展示方法を提供し、解説等の多言語化をはじめ、誰もが分かりやすく、楽しみながら学べる展示とします。

10 館内構成

四国西予ジオミュージアムの主要な館内構成について、基本コンセプト及び展示方針に基づき以下の

とおり定めます。また、限られたスペースを有効活用するとともに、各空間にゆとりがあり、利用者がリラックスできる雰囲気をもつ館内構成を目指します。

(1) ジオパークを学ぶ

日本ジオパークネットワークの一員として、ジオパークの理念である保全、教育、ジオツーリズム、それによる持続可能な地域社会の実現についての解説を行い、全国に点在する各ジオパークについて紹介することで、ジオパークに関する基本的な知識を得ることができる展示とします。また、四国西予ジオパークに比較的近く、四国内に位置する室戸世界ジオパークや土佐清水ジオパーク構想の位置情報等を示すことで各地域を繋ぎ、ジオパークを巡る来訪者の周遊性向上を図るほか、四国西予ジオパークの地形・地質と関連性が深いジオパークについての解説を行います。

なお、世界及び日本ジオパーク認定地域は年々増加していくことから、適宜、展示内容を更新していく必要があります。

(2) 変動する大地と四国西予ジオパークの成り立ちを学ぶ

地球誕生から現在に至るまでの壮大な歴史について、収蔵物や四国西予ジオパークから発見された化石及び岩石の実物を活用した展示によって地球科学の理解促進を図り、それらの影響を受けて四国西予ジオパークの大地がどのように形成され、現在のような標高差 1,400m の大地が形成されたかを解説します。特に、その形成時に起こったと考えられる重要な自然現象（海底地すべり及び山地での地すべり、河川での土砂移動、V 字谷、河成段丘、リアス海岸、盆地、付加体の形成等）については、積極的に四国西予ジオパークのジオサイトを用い、ボーリングコアや実写真、表現に優れたアニメーション等による映像装置、地球物理的現象の再現装置によって視覚的な紹介となるように考慮します。

(3) 四国西予ジオパークの地形・地質、生態系、文化の多様性と繋がり

四国西予ジオパークの地形・地質、生態系、文化的な特徴については、四国西予ジオパークの地質や地形の違いといった地球科学的なことから、石垣の違い、低地と高地の気候の違い、海岸部で暮らす人と山間部に暮らす人の生活の違い等を比べ、その多様性に気づくことで、四国西予ジオパークの特徴を知り、学ぶことができる展示とします。

また、多岐に渡る特徴的な多様性については、四国西予ジオミュージアム内で全てを解説するのではなく、より詳細な情報を解説する市内の他博物館へと誘導を促す解説をします。

(4) 黒瀬川構造帯

黒瀬川構造帯に関する研究発祥の地が旧黒瀬川村（城川町）であることから西予市城川地質館においても黒瀬川構造帯に関する解説・展示を行うなど、西予市はその情報発信に重要な役割を担っています。また、黒瀬川構造帯は日本列島誕生の鍵を握るともいわれており、地球科学分野では今なお重要視されている地質帯で、四国西予ジオパークのジオ多様性の重要な要素のひとつです。

このため、四国西予ジオミュージアムにおいても、幅広い年代が黒瀬川構造帯と四国西予ジオパークの関係性の理解を深めるために、学術的な専門用語を極力省き、子どもから大人に渡る幅広い年代の知的好奇心を刺激するような展示を行います。

また、日本列島の成り立ちだけでなく東アジアや地球の成り立ちに対する理解や Gondwana 大陸から現在に至る諸説等について、映像装置等を効果的に用いることで理解促進を図ります。

(5) 多くの利用者が集い賑わう多目的ホール

多目的ホールは正面入口付近に配置しますが、施設全体でゆとりを持たせられるよう壁面に移動パーティション等を活用して展示スペース等との一体的な運用を図ります。それによって、団体客等の受入時には来館者向けの事前学習やミニ講座、地形や地質の成り立ちを学ぶことができる体験実験、基礎科学実験、企画展、ジオミュージックの体感、専門家を招いての講演会、さらには市民と来訪者の交流促進の場などの多様な使用用途にフレキシブルに対応可能な空間とします。

多目的ホールの壁面については、四国西予ジオパークの見どころを紹介するパネル展示や市民団体等の活動紹介の場として有効活用します。

なお、有事の際には、災害時の避難所として開放し、住民や利用者の安心安全を図ります。

(6) ジオパークの拠点施設として一体感を持った館内構成

本項で定める館内構成のほか、施設に付随する廊下及びスロープ等についてもその壁面、床等を十分に活用することで、展示スペースの限られた空間を補い、施設全体として一体感を持った館内構成とします。

(7) 屋内展示と連動した屋外空間の活用

屋内の限られたスペースでの展示を補完するために、館内部での展示に留まらず四国西予ジオミュ

ジウム周辺の駐車場等を活用した屋外展示を行います。屋外展示では、屋内展示と連動した岩石展示をはじめ簡易な実験体験スペースとしての利用を検討します。特に、駐車場は来館者を迎える最初の空間となることから、効果的な屋外展示によって四国西予ジオミュージアムへの期待感を高める雰囲気形成に努めます。

1 1 管理・運営

(1) 組織体制

四国西予ジオミュージアムでは、西予市や四国西予ジオパーク推進協議会所属の学芸員及び専門員、ジオガイド、愛媛大学、博物館ボランティア等と連携・協働し、施設の利活用プランの策定、来訪者促進の営業活動、情報発信等に一体的に取り組む組織体制を構築し、利用者のニーズに応じた運営体制の充実を図っていきます。

また、市民の利用を促進するために学校教育の場としての活用だけでなく、休日に市民が家族連れで利用できる博物館を目指した取り組みを進めます。

なお、来館対応については、開館中は施設内に在中者を配置し、対応します。

(2) 集客想定

博物館の集客を左右する要因としては、施設の性質・規模、入館料、施設周辺に住居する人口（後背人口）、施設周辺を訪れる観光客、アクセス性、集客施設の集積度、広報活動等が考えられますが、一般的な展示・学習施設等の入館者数は、施設規模と相関関係にあることから、市内の主要な観光施設である開明学校及び西予市立美術館ギャラリーしろかわの来館者数、延床面積を参考に四国西予ジオミュージアムで想定される基礎来館者数を約 9,400 名とします。

施設名	開明学校	市立美術館ギャラリーしろかわ
入館者数（人） ※平成 27・28 年度の平均	8,876	9,695
延床面積（㎡）	338.8	1041.2

また、四国西予ジオミュージアムでは、建設予定地に隣接する道の駅きなはいや、市立美術館ギャラリーしろかわ等の周辺施設と一体的に機能し、相互作用をもたらす施設を目指しています。このため、周辺施設利用者のうち施設の性質が同質である市立美術館ギャラリーしろかわ、城川歴史民俗資料館の

年間来館者の10%、さらに道の駅きなはいや、宝泉坊ロッジ、クアテルメ宝泉坊の年間利用者の1%を基礎来館者数に加えます。さらに、四国西予ジオパークの目玉である拠点施設の所期の効果として、期待計数（1.5）を乗じた年間約20,000名を開館当初の集客想定予測とします。今後は、この集客想定に基づいた運営体制の構築を目指します。

施設名	市立美術館 ギャラリーしろかわ	城川歴史民俗 資料館	道の駅 きなはいや	宝泉坊ロッジ	クアテルメ 宝泉坊
入館者・利用者数（人）	9,695	455	175,461	11,610	162,021
※平成27・28年度の平均	(969) ^{※1}	(46) ^{※1}	(1,755) ^{※2}	(116) ^{※2}	(1,620) ^{※2}

※入館者・利用者数の下段は、※1は入館者数×10%、※2は利用者数×1%

《集客想定予測数》

(基礎来館者数 + 周辺施設来館者数) × 期待計数 ≒ 20,000名

(3) 収蔵物の管理

現在の西予市城川地質館では、館内展示物、寄贈物を始めとした多くの貴重な資料が保管されております。四国西予ジオミュージアムでは、これらの収蔵物を最大限活用した展示計画を定め、適切な管理を図っていくために、収蔵物のデータベース化を進めます。

また、収蔵物を将来に渡って適切に管理していくため、管理方法のマニュアル化、寄贈物の受入基準の明確化を行います。

(4) 開館時間及び休館日

市民や来訪者の利便性を最大限に考慮した開館時間及び休館日の設定を行います。また、夏季等の長期休暇期間では、開館時間等を利用者の要望に応じて柔軟に対応するよう検討します。

(5) 施設の利用料金

四国西予ジオミュージアムの入館料及び利用料金について、博物館部分については持続可能な施設運営を続けていくために入館料を有料としますが、子ども向けの料金、提供するサービスの質や来館者の

負担率等を勘案した料金設定を行います。また、地域での周遊性向の向上を目的に、四国西予ジオミュージアム単館での料金設定だけでなく、周辺施設及び温浴施設等とのセット料金について検討していくこととします。

多目的ホールについては、他の市有施設における会議室及びホール利用料金を参考として、適切な料金設定を行います。

